423-305

亞細亞大觀

百三十回
十一輯ノ十二

樂土滿洲

滿洲の古代色……一
土の住居……二
城壁……三
豚と滿人……四
親豚と子豚……五
滿人と驢馬……六
平和な牧場……七
老翁と孫……八
露人部落の朝……九
ハルビン場末……十

樂土滿洲　本社

撮影と說明　青山春路

大連市山縣通一九三

發行所　亞細亞寫眞大觀社
電話(2)六二三五番
振替大連七一八番

(每月一回發行)

版權所有　不許複製

編輯人　大連市山縣通一九三　青山春路
發行人　同　島崎役治
發行所　同　亞細亞寫眞大觀社

樂土滿洲

建國既に四年、滿洲の主要都市は近代文化の粹を集めて躍進の途上行進曲を奏で、經濟的發展も亦目醒しく、鐵道、自動車、道路等の交通網は其の完備を求めて北へ南へ千古斧鉞を入れざる密林の奥、雲際連天たる曠野の果へ滿洲國文化の花は燎亂として黎明に咲き誇らんとしてゐる。こうした現實の躍進滿洲も往時を想ひ起す時は、轉た、慘瞻たる光景が浮んで來るのである、支那政權の壓迫、重い課稅、軍閥の横暴、匪賊の跳躍等世をあげて苛斂誅求に傷められてゐた過ぎ來し方を省みれば現在の樂土滿洲恰も別天地の如く秩序整然たる王道樂土の慈光漲りなごやかな平和の光に輝いてゐる。更にまた五族協和民族の曲折多かつた變遷の歷史を尋ぬれば、更に趣きは深いこれは略しても彼の國を追はれて十七年、故國ロシヤに歸ることを許されない數萬の白系露人達は無籍國人として滿洲にうらぶれの生活を送つてゐたのであつたが、王道の慈光はよるべなき彼等の上にも隅なく照り映えてゐるのである。

滿洲國人は現在三千萬民衆と言はれてゐる。其の地域の曠大さは日本の約二倍で、肥沃の未墾地、千古斧鉞を入れざる原始林、鑛產物、河、川、沼、湖、の漁族等の物資は無限の埋藏だと云はれてゐる。斯うした富源の地域に住んでゐる民族は種々雜多の者が交錯的生活を成してゐる。

之等の民族は、類別して見ると、普通滿洲人と言はれてゐるのが二千數百萬人、これは支那民族の移住者が主となつてゐる。それから、朝鮮人が約百萬人日本人が二十數萬人、露西亞人が十萬人、其他蒙古人、滿洲族人、黑龍江上流興安嶺の山中地方には今尙文化の光を浴びざる、ヱロト、ブリヤード、タボール、バルカ、オロチヨン、ソロンと云ふ樣な未開民族が生活してゐる。是等の民族を合すれば三千萬人を遙かに超えることであらう。

こうした雜多の人種、風俗習慣、言語の異なつた、民族が、御互の自由平和を求めて愛と正義を念願し、民族協和に留意し安居樂土に力を注いで來た。建國當初からの專らの運動は遂に今日の樂土滿洲を築き上げた。そして滿洲國の全住民に今や王道の慈光は廣大無邊に國の隅々曠原の果てまでも漲り歡嬉の世界に滿ち溢れてゐる。更にカメラを携へて郊外に逍遙すれば、本月號の寫眞の如く滿洲の土俗、風俗が、滿洲古代的錆びのある形態とより畫面の中に躍り來るこうした樂土滿洲の現狀を眺めながらまた半面に由緒ある年を經た、城壁城根の柳、その他の古木、道ばたに佗しく殘つた、土壁などにも幾多人生の活劇を秘めたる歷史が殘されてゐるであらうと、そぞろゝに昔が偲ばれて感慨深いものがある。

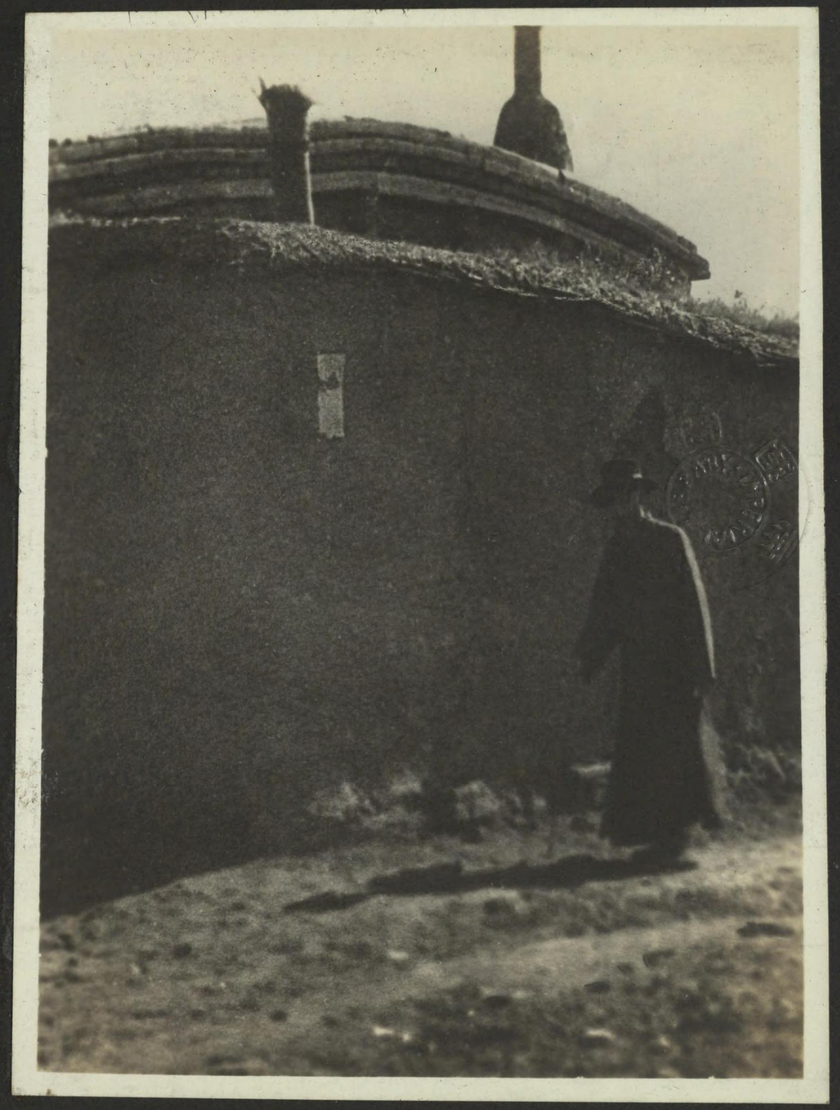
滿洲の古代色

（新京の町はづれ）

躍進滿洲の大都市といふ大都市は、めまぐるしい發展と共にすべての形態は近代文化の一色に塗りつぶされてゆく、だが一歩郊外に歩を運へば、そこには、今も尙情趣豐かな滿洲の古代色が殘されて居り、素朴な滿人の生活圖譜がくりひろげられてゐる、柳の古木、寺院の屋根、さては道行く人々の姿態にもありのまゝの滿洲色が横溢してゐるではないか

（印畫の複製を禁ず）

ものがある。



土の住居

（新京郊外）

土の家、土の屋根、土の煙突、そして、それをめぐらす土の塀、滿洲の農民は全く土と共に生活を營んでゐる。まさか泥を食料とはしないが、建築の材料として、畑に施す肥料の媒体物として、時には匪賊の來襲を防ぐ防禦物として彼等の生活には土が百パーセントに利用されてゐる。土と共に生活する滿人が泥濘脛を沒するやうな道路などを意としないのも敢へて不思議なことではない。

（印畫の複製を禁ず）

城壁

（金州城門）

滿洲のやゝ大きな都は大概物々しい城壁をもつてめぐらされてゐる。その昔には唯一の防備であつた城壁も今は古代の遺物として生活には何の交渉もない存在となつてゐる。だが斜陽にうづすりと染め出された城壁、眞紅な落日をバックとして巍然と立つ城壁、さては城門の下を來往する滿人の素朴な姿などを見るとき誰しもそこに捨て難い情趣を感ずるであらう。

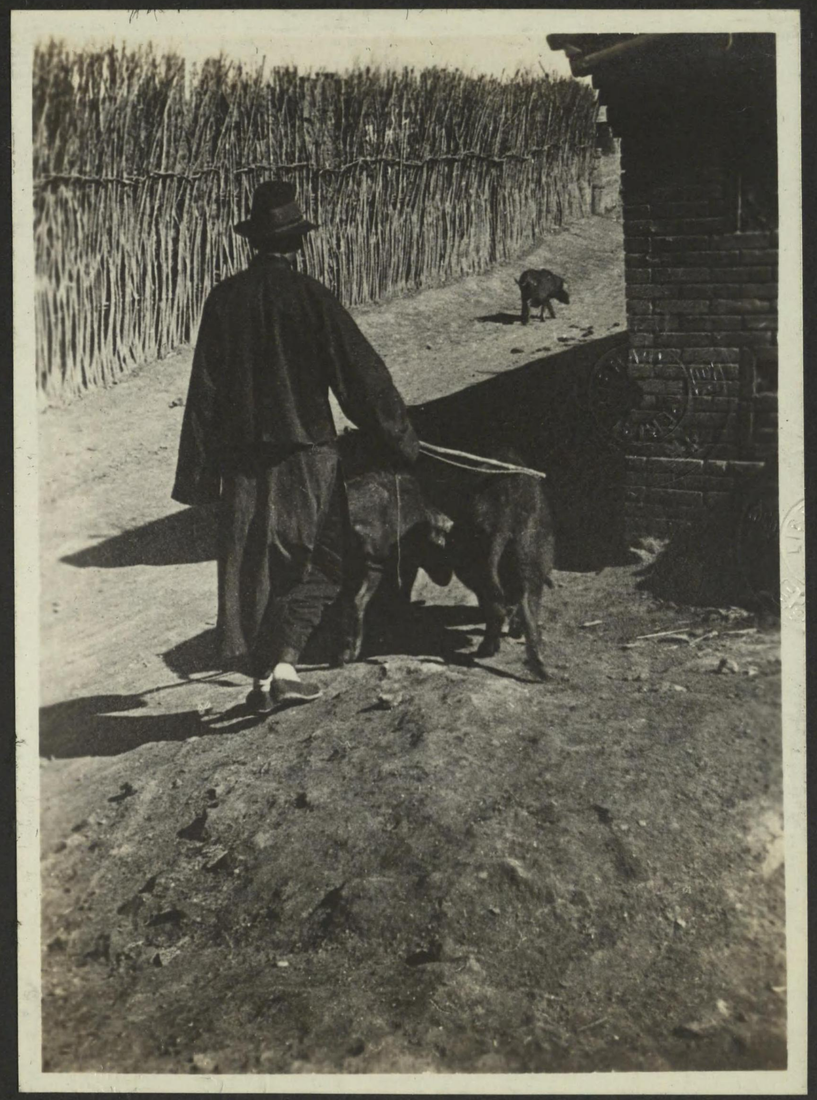
（印畫の複製を禁ず）

居住の

（新京郊外）

夫に生活の[illegible]しないが、建築の材料として、畑に施す肥料の媒体物として、時には匪賊の來襲を防ぐ防禦物として彼等の生活には土が百パーセントに利用されてゐる。土と共に生活する滿人が泥濘脛を沒するやうな道路などを意としないのも敢へて不思議なことではない。

（印畫の複製を禁ず）

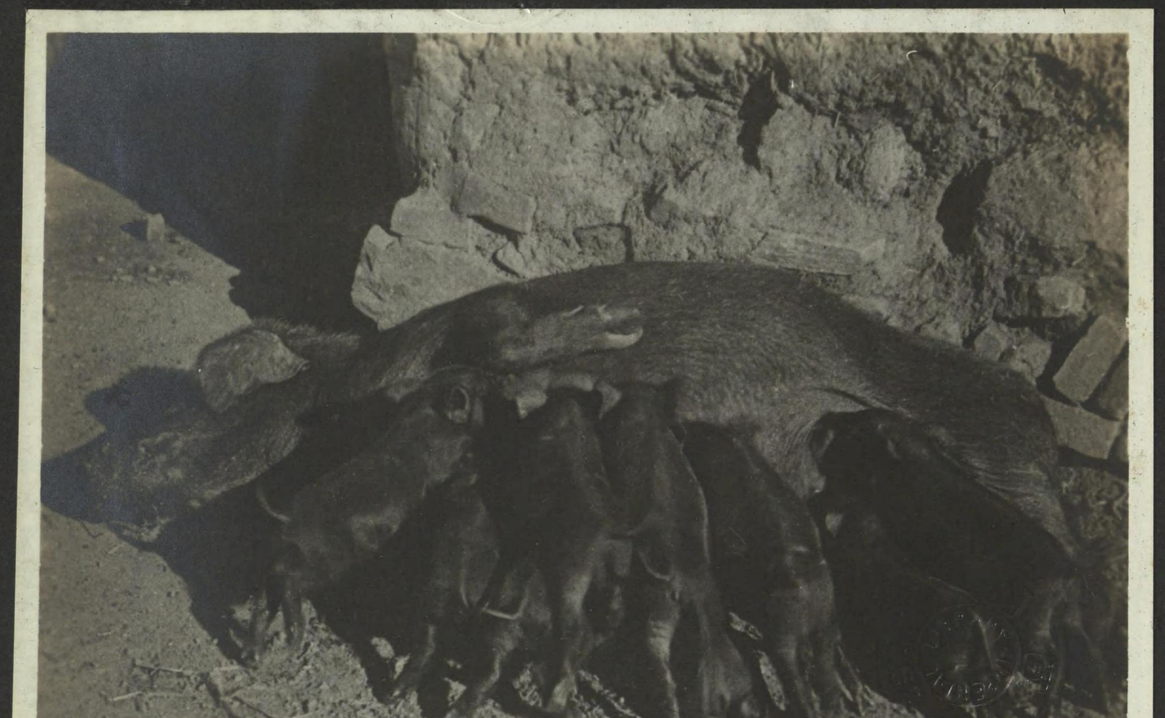


豚と滿人

（新京郊外にて）

滿人の生活と豚とは實に密接な關係がある
だから、どこの部落に行つても先づ目につく
ものは豚君である。地につくやうに大きな腹
を垂れた親豚、生れて間のない可愛い子豚、
大小樣々の豚が人家の軒、水溜りの中、畑の
隅に食物をあさりながら呑氣さうに遊んでゐ
る。村から村へ飼主に送られてゆく數匹の豚
それはどこかへ賣られて行くのであらう

（印畫の複製を禁ず）



親豚と子豚

（新京附近）

滿人部落の午後……

民家のくづれかけた土塀の下に一匹の親豚が柔かい陽の光を一ぱいに浴びながら墓ひよる子豚に乳をのませてゐる。本能的な母性愛だと言つてしまへばそれまでだが、ころしたシーンにも何かしら平和な姿を感ずることが出來やう。

（印畫の複製を禁ず）

滿人

（てに

る。村から村へ飼主に送られてゆく數匹の豚それはどこかへ賣られて行くのであらう

（印畫の複製を禁ず）

滿人と驢馬

（新京附近）

豚の外に滿人の生活と密接な關係のあるものに愛すべき驢馬がある。時には荷物を脊に時には頰紅つけた村の娘を脊に乘せてシャラン〳〵と鈴の音も淸らかに村から町へ町から村へ、驢馬は常によき村人の道連れである

（印畫の複製を禁ず）

平和な牧場

（公主嶺農場）

柔かい斜陽に照された公主嶺の牧場…平和のシンボルのやうな美しい群羊が、背筋に受けた光の波をうねらせながら廣い牧場の中を、牧童の打ち振る鞭のまゝに從順に動いてゆく閑寂な牧場には友を呼び合に優しい羊の鳴聲の外に聞える何物もない、平和そのものゝ姿だ。

（印畫の複製を禁ず）

人と驢馬

（京附近）

時には頰紅つけた村の娘を脊に乘せてシャラン〳〵と鈴の音も淸らかに村から町へ町から村へ、驢馬は常によき村人の道連れである

（印畫の複製を禁ず）

老翁と遜

（ハルビン近郊）

うらゝかな秋の陽を浴びて砂丘の上の柳の蔭に終日孫のお守りをする白髯の老翁、眠むたげな孫達の目に、秋の目の陽炎がチロ〳〵とたわむれてゐる。これも王道樂土に描かれた一幅の泰平圖譜であらう

（印畫の複製を禁ず）

露人部落の朝

（ハルビンの場末）

晩秋……

ハルビンの場末に殘された白系露人の貧民窟の朝である。朝の光が傾きかけた窓からさし込む時國を失へる人々の胸にも何かしら一日の希望が芽ぐむのである、かくて彼等には一日のパンを得るための勞苦はあつても、王道樂土なるが故に生活權への迫害もなく、平和なその日〳〵が送られてゆく

（印畫の複製を禁ず）

（印畫の複製を禁ず）

白系露人の子供

（ハルビンの場末）

白系露人が國を追はれて幾十年、だが彼等の子供は滿洲で生誕し、樂土滿洲にスク〳〵と育つてゆく、一日を何のこだわりもなく友達と樂しく遊び樂しく語り合つて居る子供達には國を持たないことなどは何の關係もないものゝ如くである

（印畫の複製を禁ず）

42
30

42
30

423
305

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black